

セイ業
オキ産

廃石膏板の分別機を設置

再資源化ルート構築

解体工事や収集運搬、中間処理で実績を重ねるオキセイ産業（沖縄県浦添市、松原良雄社長、☎098・876・

3098）は、西原営業所内で日量約25t処理能力を持つ石膏ボード分別機（鍛長製衡製造）を設置し、既存の処理装置と合わせて日量33tの処理能力となつた。

同クラスの大型処理機

施設の外観

石膏ボード分離機

中間処理で実績を重ねるオキセイ産業（沖縄県浦添市、松原良雄社長、☎098・876・

の導入は沖縄初。県下でも今年4月から処理後の石膏粉が管理型処理となつた廃石膏ボードの適正処理を推進す

る施設として、関係者からの期待は大きい。分離した後の石膏粉は、県内で土壤改良材などに全量利用できるルートも構築して受け皿を完備した。

石膏ボード分別機を

新しく導入した西原営業所の敷地面積は、約3300平方メートル（約1000坪）で、西原工業団地内の中間処理工場だ。廃石膏ボードは、施設の中で、紙と石膏粉に分離して処理している。

処理フローは、2立方メートルのホッパーに廃石膏ボードを投入し、コンベアで整粒ローラーに運ぶ。磁選機で鉄類を取り除き、ローラーでつぶした廃石膏を3ミリ網の振動ふるい機に

かける。紙と石膏粉に分離されるが、オーバーサイズのものは、別にふるい機にかけられて紙を除き、大きな石膏粉は戻されて処理される。